第 13 回大阪大学専門日本語教育研究協議会

「留学生大量受け入れ新時代の大学における日本語カリキュラムの再考」

報告書

大阪大学 国際教育交流センター

2020 年（令和 2 年）2 月 18 日

第 13 回大阪大学専門日本語教育研究協議会

目 次

プログラム 1

背景および趣旨 2

講演１：東北大学における日本語カリキュラムの概要と国際共修科目

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 講師

林 雅子 4

講演２：日本語教育はどこまで学内クラスで対応可能か

筑波大学 人文社会系（グローバルコミュニケーションセンター）教授

小野 正樹 17

報告：大阪大学における全学留学生対象の日本語プログラムおよび日本語学習支援システムの紹介

国際教育交流センター 准教授

難波 康治 20

全体討論 25

写真： 協議会風景 28

付録： 過去の大阪大学専門日本語教育研究協議会の開催状況 30

第 13 回大阪大学専門日本語教育研究協議会

日　時：2020 年 2 月 18 日（火）13:00～17:00（受付 12:40～）
場　所：大阪大学吹田キャンパス
　　コンベンションセンター２階　会議室２
主　催：大阪大学国際教育交流センター

「留学生大量受け入れ新時代の大学における日本語カリキュラムの再考」

13：00～13：10　開会の挨拶　　国際教育交流センター　センター長　有川 友子

総合司会　韓 喜善（国際教育交流センター 特任講師）

13：10～14：00　講演１：東北大学における日本語カリキュラムの概要と国際共修科目
東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師　林 雅子

14：00～14：10　　休　憩

14：10～15：00　講演２： 日本語教育はどこまで学内クラスで対応可能か
筑波大学人文社会系（グローバルコミュニケーションセンター）教授　小野 正樹

15：00～15：15　　休　憩

15：15～15：40　報告：大阪大学における全学留学生対象の日本語プログラム
および日本語学習支援システムの紹介
難波 康治（国際教育交流センター 准教授）

15：40～15：55　　休　憩

15：55～16：55　全体討論：
司会　西口 光一（国際教育交流センター教授）

16：55～17：00　閉会の挨拶　　国際教育交流センター 副センター長　村岡 貴子

第13回　大阪大学専門日本語教育研究協議会

「留学生大量受け入れ新時代の大学における日本語カリキュラムの再考」

主催　大阪大学国際教育交流センター

背景および趣旨

いわゆる「留学生30万人計画」のもと大学のグローバル化が叫ばれて早くも10年がたち、日本の大学においては、留学生数が着実に増加の一途をたどっています。この傾向は2014年以降顕著になっており、2014年頃まで学部・大学院を含めて11万人前後で推移していた留学生数は、2019年現在では13万人を超え、新たな大量受け入れ時代を迎えたといえます。また、それらの学生については、出身国、在学段階や滞在期間の長短などにおいて、従来とは異なる分布を示しています。一方で、少子化による労働人口確保を旨とした留学生の雇用を推進するという政府の方針もあり、留学生のキャリア教育の一環としてビジネスコミュニケーションの重要性が叫ばれています。

私たち国際教育交流センターは、大阪大学が「グローバル30」に選定されたことに伴い、2007年より「OUS日本語カリキュラム」として、留学生大量受け入れ時代の大学における日本語教育がどうあるべきかを検討し、シラバス、レベル分け、教材、支援システムなどを刷新しました。このOUカリキュラムの完成からすでに10年が経過し、上記のような新たな時代の要請に応えて「大学における日本語プログラム」のあり方を再考する時期に至っていると考えました。

このような現状認識のもと、本研究協議会では、現状の課題を共有するとともに、今後の大学における日本語教育のカリキュラムをどのように考えるかについて情報交換や意見交換を行い、共通の課題について議論を行います。今回は、東北大学より林雅子先生、筑波大学より小野正樹先生をお招きし、ご講演をいただきます。

林先生からは、東北大学の日本語カリキュラムの現状と、留学生と日本人学生等がともに様々な内容科目を学ぶ国際共修科目の試みについてお話しいただきます。

小野先生からは、日本語教育、外国語教育、国際教育を１つのセンターとして組織化した筑波大学における日本語教育の現状と課題についてお話しいただきます。

併せて、大阪大学国際教育交流センターにおける日本語プログラムの紹介と、新しい試みについてご報告いたします。

以上のお話を受けて、新たな時代の要請に応える大学における日本語プログラムのあり方がどのようなものになればよいかについて、参加の皆さんとディスカッションしたいと考えています。

講演　1

東北大学における日本語カリキュラムの概要と国際共修科目

林 雅子
東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師

東北大学における日本語カリキュラムの概要と国際共修科目

第13回大阪大学専門日本語教育研究協議会
「留学生大量受け入れ新時代の大学における
日本語カリキュラムの再考」

2020年2月18日

東北大学 高度教養教育・学生支援機構
林 雅子 masako@tohoku.ac.jp

講演内容

1. 東北大学の日本語カリキュラムの概要
2. 就職支援プログラムとグローバル人材育成
3. 留学生・日本人学生協働の「国際共修」の概要と実践

国際戦略の策定に寄せて

山口昌弘
東北大学国際戦略室長
副学長・教授

2018 年 7 月、国際戦略室が総長直下の組織として設置されました。これは、開学以来脈々と培われてきた東北大学とその関係者による国際的な活動や国際ネットワークの形成を、より戦略的・機動的に推進することの必要性が強く認識されたことによります。

「東北大学の国際戦略」は、2018 年 11 月策定の「東北大学ビジョン 2030」で示された「戦略的な国際協働の深化（重点戦略⑪）」を実現すべく、さらなる国際化に向けた指針と行動計画を明示することを目的として策定したものです。

東北大学をはじめ、日本の大学を取り巻く国内外の環境は極めて厳しくありますが、同時に、「東北大学ビジョン 2030」では、東北大学のミッションおよび活動の範疇が日常的に国を超えて世界にあり、グローバル大学としての歩みを進めていくのだという、我々の確信と決意を示しています。

東北大学の国際戦略：https://ie.bureau.tohoku.ac.jp/international-strategy

6. ターゲット１．世界的視野に立つ教育

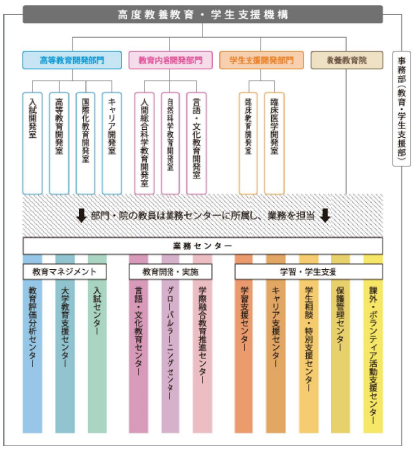
国内外から優秀な学生・教員を惹きつけ、大変革時代の社会を世界的視野で力強く先導するリーダーを育成する。

アクション

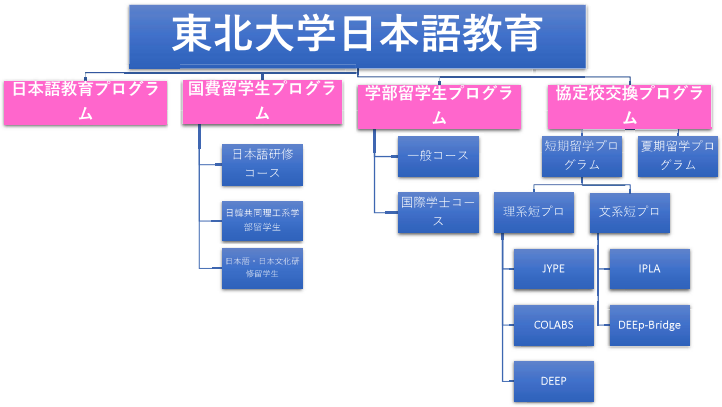
- 国際学位コースの拡大を中心とした、優秀な留学生の積極的・戦略的な受け入れを拡大する
- グローバル社会を先導する人材の育成を基軸とした学士課程教育プログラムを改革する
- 国際共同大学院プログラムによる、世界最先端の研究及びプロフェッショナル教育と接続した国際協働教育を充実させる
- 国際共修を高年次や大学院まで拡大し、グローバルシティズンシップ、ダイバーシティへの確固たる理解と行動力を育成する
- 外国語運用能力の向上等を通じた学生の留学や国際キャリア支援を強化する
- 国立大学最大の収容力を持つユニバーシティハウス（国際混住寮）などを有効活用し、キャンパスの国際化を全学展開する

東北大学の国際戦略：https://ie.bureau.tohoku.ac.jp/international-strategy

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 組織構成



東北大学高度教養教育・学生支援機構HP：http://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page_id=691



東北大学日本語教育セクションHP：http://www.jlpk.ihe.tohoku.ac.jp/ja/staff/

日本語教育プログラム

対象者

- 東北大学に在籍する全ての外国人留学生（学部生・大学院生・研究生）と外国人研究者が対象
- 国費留学生プログラム、協定校交換プログラム、学部留学生プログラム等のプログラムに属していなくても受講可能

研修内容

- 東北大学に在籍する外国人留学生と外国人研究者の日本語能力の向上と環境への適応を図ることを目的
- 大学での勉学・研究を行なう上で役に立つアカデミックな日本語の運用力を伸ばす
- 文法、聴解、会話、読解、作文、漢字を含む様々な種類の授業

東北大学日本語教育セクションより抜粋：http://www.jlpk.ihe.tohoku.ac.jp/ja/

国費留学生プログラム

日本語研修コース：国費大学院留学生日本語集中予備教育プログラム

- 本学・近隣大学の大学院進学予定者・教員研修予定者（国費）
- 大学院進学等のための予備教育

日韓共同理工系学部留学生プログラム

- 理工系学部入学予定者（国費、日韓政府間定に基づく）

日本語・日本文化研修留学生プログラム

- 日本政府（文部科学省）から奨学金を得ている留学生学部留学生プログラム

東北大学日本語教育セクションより抜粋：http://www.jlpk.ihe.tohoku.ac.jp/ja/

学部留学生プログラム

一般コース

- 東北大学で**日本語**で学士号を取得する留学生が対象
- 全学教育科目として開講されている日本語の授業
- 英語、ドイツ語などの外国語科目等も開講
- 上級レベルの日本語を受講

国際学士コース：Future Global Leadership Program

- 東北大学で**英語**で学士号を取得する留学生が対象
- 初級～中級前半レベルの授業を受講

東北大学日本語教育セクションより抜粋：http://www.jlpk.ihe.tohoku.ac.jp/ja/

協定校交換プログラム

短期留学プログラム

- 東北大学で１年間又は半年間学ぶ交換留学生が対象
- 専門教育を受けるプログラムが開講
- どのプログラムでも日本語の履修が可能
- IPLAとDEEp-Bridgeでは日本語の履修が必修

夏期留学プログラム

- 東北大学で夏期に行われる2～3週間の短期プログラム
- 日本語・日本文化研修を中心としたプログラム（TUJP）

東北大学日本語教育セクションより抜粋：http://www.jlpk.ihe.tohoku.ac.jp/ja/

理系短期留学プログラム

JYPE(Junior Year Program in English)

- 研究室に配属されサポートを受けながら自分たちの分野の 研究を進める
- 日本語や日本社会への理解を深めるための授業も提供

COLABS(Cooperative Laboratory Study Program for postgraduate students only)

- 大学院生：学生は研究室に配属され研究に従事しつつ英語開講授業履修可能

DEEP (Direct Enrollment Education Program for Natural Science Students)

- 学部生：幅広い分野での研究と全学教育科目・専門科目を履修可能
- 大学院生：講義の聴講、各研究科での研究活動，最先端の研究に従事可能

東北大学日本語教育セクションより抜粋：http://www.jlpk.ihe.tohoku.ac.jp/ja/

文系短期留学プログラム

IPLA(International Program in Liberal Arts)

- リベラルアーツを英語で学ぶ。日本への総合的理解を深める：入門～上級
- 日本人学生とのクラスや課外活動の両方における相互交流
- 各学部、教職員、学生のサポートグループ"IPLANET"が手厚くサポート

DEEp-Bridge (Direct Enrollment Education Program for Humanities/Social Science Students)

- 日本語・日本文化研修、学術日本語の教育：中級～超級
- レベルに応じた日本語科目や国際共修科目を履修
- レベル6の学生は日本人学生と共に全学教育科目や人文社会系の専門科目も履修可

東北大学日本語教育セクションより抜粋：http://www.jlpk.ihe.tohoku.ac.jp/ja/

日本語教育セクションの沿革

1966年	東北大学教養部に**外国人留学生特別課程（日本語）**設置。
1981年	東北大学教養部で学部留学生を対象とする**日本語・日本事情**の授業科目を開設。
1985年10月	東北大学教養部に**日本語研修コース**を設置。
1993年3月	教養部廃止。
1993年4月	留学生センター発足。
1996年10月	短期留学生受入プログラム**JYPE（Junior Year Program in English）**開設。
2000年10月	**日韓共同理工系学部留学生プログラム**開設。
2004年10月	大学教育研究センターが改組され、高等教育開発推進センター発足。
2005年3月	留学生センター廃止。
2005年4月	留学生センターの改組により、国際交流センター発足。
2009年4月	**外国人留学生等特別課程**と**全学教育のクラス合同**で授業を行なう**「国際共修ゼミ」**開設。
2010年10月	短期留学生受入プログラム**IPLA（International Program in Liberal Arts）**開設。
2014年4月	高等教育開発推進センターの改組により、高度教養教育・学生支援機構発足。
2016年10月	人文科学・社会科学系の交換留学プログラム**DEEp-Bridge**開設。

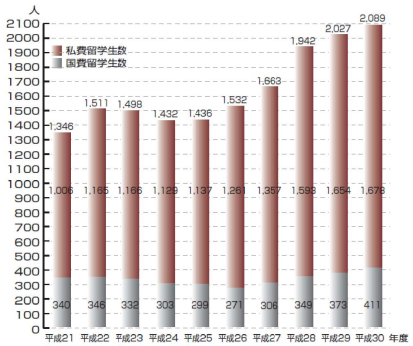
東北大学日本語教育セクション沿革より抜粋：http://www.jlpk.ihe.tohoku.ac.jp/ja/staff/

日本語のレベルと到達目標

	到達目標		
		CEFR/JFS	JLPT
レベル1（入門）	日常生活に必要な会話力や、読んだり書いたりする力をつけます。	A1	N5
レベル2（初級）	日常生活のいろいろな場面で、話したり、聞いたり、読んだり、書いたりする力をつけます。	A2.1	N4
レベル3（初中級）	大学生活を送り、大学で授業を受けるのに必要な日本語の基礎を身につけます。	A2.2	N3
レベル4（中級）	身近な話題について記事や論説文を読んだり、簡単なレポートを書いたりする力を育てます。また、講義を聞き、意見を述べる力を身につけます。	B1	N2
レベル5（中上級）	大学の授業で論理的な文章を読んだり、レポートを書いたり、授業を聞いたり、発表をしたりするのに必要な日本語力を身につけます。	B2	N1
レベル6（上級）	論文、専門書など論理的な文章を理解したり、レポートを書いたり、専門の講義を聞いたり、演習で発表をしたりするために必要な日本語力を身につけます。	C1	

東北大学日本語教育プログラム 受講案内：http://www.he.tohoku.ac.jp/SJLE/JLPK/guide.pdf

外国人留学生受入数の推移



東北大学概要2018： http://www.bureau.tohoku.ac.jp/koho/pub/gaiyou/gaiyou2018/

レベル

B 1 0 0

C (Comprehensive Japanese)	レベルに合った文法と語彙を学び、「聞く」「話す」「読む」「書く」力をつけます。日本で大学生活を送るのに必要な日本語の運用力を総合的に身につけます。
B (Basic Japanese for Business Communication)	日常生活の様々な場面に即した初歩的な会話力とビジネスで使われる簡単な表現を身につけます。
I (Beginning/Basic Japanese for Interaction)	初級の文法を学び、「聞く」「話す」「読む」「書く」力をつけます。特にコミュニケーション力を身につけることに重点を置きます。
G (Grammar)	文法を学び、日本語運用の基盤を作ります。
L (Listening Comprehension)	講義を聞いたり、説明を理解したりなど、大学生活で必要な聞く力を身につけます。
S (Speaking/Conversation)	大学生活で必要な話す力を身につけ、口頭発表のしかたを学びます
R (Reading Comprehension)	専門書や論文を読むのに必要な基礎的な読解力を身につけます。
W (Writing/Composition)	レポート、研究計画書、論文などを書くのに必要な基礎的な作文力を身につけます。
A (Applicative Practice)	日本語の応用力を身につけます。
H (Hiragana/Katakana)	ひらがなとかたかなを学びます。
K (Kanji/Vocabulary)	漢字と漢字語彙を学びます。

0	限定なし
1	非漢字圏学生用
2	漢字圏学生用

0	優先・専用なし
1	JYPE/COLABS
2	IPLA
3	DEEp-BridgeU （ DEEp-Bridge学部生）
4	IPLA/DEEp-BridgeU
5	日本語研修コース
6	日韓プログラム
7	GPEM
8	DATEntre (就職支援プログラム)
9	全学教育

東北大学日本語教育プログラム 受講案内：http://www.he.tohoku.ac.jp/SJLE/JLPK/guide.pdf

Level 1（入門）

授業科目名	科目コード	クラス	開講曜日
入門日本語総合	C100	a	火4-5・木4-5
		b	火1-2・金1-2
		c	水4-5・金4-5
	C110	a	月1-2・木1-2
		b	月1-2・木1-2
		c	月1-2・木1-2
	C120		水1-2・金1-2
	C150		月1-2・火1-2 木1-2・金1-2
入門日本語コミュニケーション	I120		水1-2・金1-2
入門日本語ビジネスコミュニケーション	B170		水1-2
入門日本語総合基礎	M100		火4-5・木4-5
入門日本語読解	R150		火4・金3
入門日本語応用	A150		火3
ひらがな・かたかな	H150		10/3 – 10/7
入門日本語漢字・語彙	K101	a	水3・金3
		b	月3・木3
	K102		月3・木3
	K151		月3・木3
Eラーニング	E000		金3

東北大学日本語教育プログラム 受講案内：http://www.he.tohoku.ac.jp/SJLE/JLPK/guide.pdf

Level 2（初級）

授業科目名	科目コード	クラス	開講曜日
初級日本語総合	C210	a	月1-2・木1-2
		b	月1-2・木1-2
	C220	a	水1-2・金1-2
		b	水1-2・金1-2
	C250	a	月1-2・火1-2 木1-2・金1-2
		b	月1-2・火1-2 木1-2・金1-2
初級日本語ビジネスコミュニケーション	B270		水1-2
初級日本語読解	R250		火4・金3
初級日本語応用	A250	a	火4
		b	火3
初級日本語漢字・語彙	K201		火3・木3
	K250		月3・火3 木3・金3
共修ゼミ：日本語と英語で読む日本文学	ML000		木4
Eラーニング	E000		金 3

東北大学日本語教育プログラム 受講案内：http://www.he.tohoku.ac.jp/SJLE/JLPK/guide.pdf

Level 3（初中級）

授業科目名	科目コード	開講曜日
初中級日本語総合	C320	水 1-2・金 1-2
初中級日本語 聴解・会話	L/S310	月 1-2
初中級日本語 読解・作文	R/W310	木1-2
初中級日本語文法・読解	G/R350	月1・木1
初中級日本語文法・作文	G/W350	火1・金1
初中級日本語聴解	L300	水4
	L350	月2・木2
初中級日本語会話	S300	火2
	S350	火2・金2
初中級日本語読解	R300	火1
初中級日本語作文	W300	木3
初中級日本語応用	A350	火4
初中級日本語漢字・語彙	K300	火3・金3
	K350	月 3・火 3 木 3・金 3
共修ゼミ: 日本語と英語で読む日本文学	ML000	木4
Eラーニング	E000	金 3

東北大学日本語教育プログラム 受講案内：http://www.he.tohoku.ac.jp/SJLE/JLPK/guide.pdf

Level 4（中級）

授業科目名	科目コード		開講曜日
中級日本語総合	C440		水1-2・金1-2
中級日本語 聴解・会話	L/S410		月1-2
中級日本語 読解・作文	R/W410		木1-2
中級日本語聴解	L400		水3
中級日本語会話	S400		月3
中級日本語読解	R400		火2
中級日本語作文	W400		火1
中級日本語漢字・語彙	K400		月5・金4
中級日本語能力試験N2対策	N480		木3
研究ゼミ	RS030	a	火5
		b	水4
Eラーニング	E000		金3

中級共修ゼミ科目名	科目コード	開講曜日
異文化理解実践	IU430	木2
宮城の地域課題を観光ビジネスによって解決せよ	PB480	月5
出身国・地域を日本から見る	SC430	金3
日本語と英語で読む日本文学	ML000	木4

東北大学日本語教育プログラム 受講案内：http://www.he.tohoku.ac.jp/SJLE/JLPK/guide.pdf

Level 5（中上級）

授業科目名	科目コード	クラス	開講曜日
中上級日本語総合	C560		金1-2
中上級日本語聴解	L590		木2
中上級日本語会話	S500		火1
中上級日本語読解	R500		月5
中上級日本語作文	W500		月4
中上級日本語応用	A560		火3
中上級日本語漢字・語彙	K500	a	月3
		b	水5
中上級日本語能力試験N1対策	N580		水3
中上級日本文化演習：古文入門	CJ500		月4
中上級日本文化演習：漢文入門	SW500		火4
中上級日本文化演習：くずし字入門	HS500		水5
研究ゼミ	RS030	a	火5
		b	水4
Eラーニング	E000		金 3

中上級共修ゼミ科目名	科目コード	開講曜日
留学生と日本人学生の協働プロジェクト２	CP530	水2
グローバルな働き方を考える	HG500	火3
日本文化とコミュニケーション	JC530	月3
大学生活に役立つ敬語・日本語	JH530	木3
映画に見る日本語と日本文化	JM500	火4
歌に学ぶ日本の言葉と心	JS500	火5
日本語の多様性を考える	LV500	火1
多文化日本を生きる	MC500	金4
演劇的ワークショップ―展開編―	PW500	月3
日本語と英語で読む日本文学	ML000	木4

東北大学日本語教育プログラム 受講案内：http://www.he.tohoku.ac.jp/SJLE/JLPK/guide.pdf

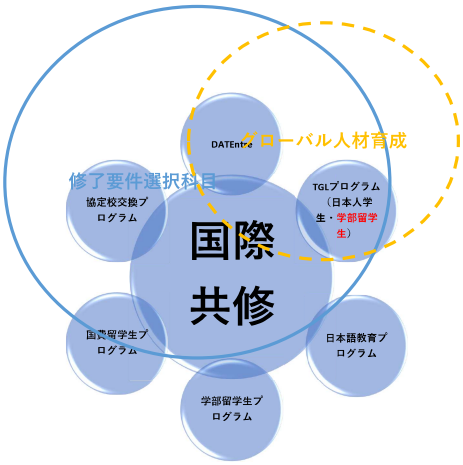
Level 6（上級）

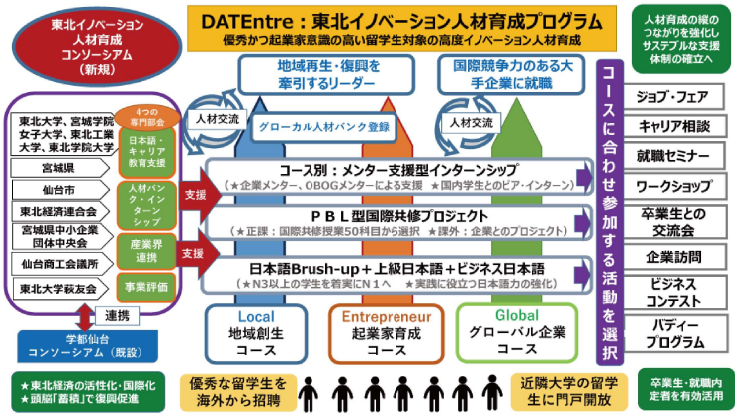
授業科目名	科目コード	クラス	開講曜日
上級日本語聴解	L690		火2
上級日本語会話	S690		木4
上級日本語読解	R690		火3
上級日本語作文	W690		木3
上級ビジネス日本語	BJ680	a	水3
		b	木6
上級日本文化演習：前近代日本の歴史と思想	PH600		木5
研究ゼミ	RS030	a	火5
		b	水4
Eラーニング	E000		金3

上級共修ゼミ科目名	科目コード	クラス	開講曜日
英米から見た日本の雇用慣行とその変化	EP600		月1
グローバル・コミュニケーション	GC680	a	火1
		b	火3
日本企業の人事システムの理解と対応方法	HR600		木5
異文化コミュニケーション学基礎	IC600		月5
仏教と日本	JB600		月2
近代日本の歴史と思想	MH600		木2
批判的思考と論理的文章	TW600		火4
日本語と英語で読む日本文学	ML000		木4

東北大学日本語教育プログラム 受講案内：http://www.he.tohoku.ac.jp/SJLE/JLPK/guide.pdf

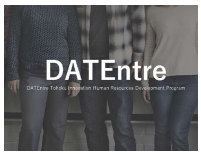
- 東北大学の日本語カリキュラムの概要
- 2 就職支援プログラムとグローバル人材育成
- 留学生・日本人学生協働の「国際共修」の概要と実践





東北イノベーション人材育成プログラム留学生就職促進事業：https://datentre.ihe.tohoku.ac.jp/

DATEntre 趣旨・目的



人材育成

- ビジネス日本語、キャリア教育・課題解決（PBL）型共修プロジェクト、インターンシップ等を通して高度イノベーション即戦力人材の育成を目指す

能力開発・文化理解

- 日本でのキャリア形成に関心を持つ留学生の日本語運用能力、日本的企業文化への理解等を一層高める

就職支援

- **東北学院大学、東北工業大学、宮城学院女子大学、東北大学**等の優れた留学生の東北地方及び日本企業への就職を支援

2019年度 DATEntre東北イノベーション人材育成プログラム第5期生（10月入学）学生募集要項より抜粋
https://datentre.ihe.tohoku.ac.jp/wp-content/uploads/2019/08/

DATEntre 東北イノベーション人材育成プログラムのコース

① 地域創生コース Regional Creation Course

- 即戦力として地元企業に就職する人材を目指す
- OJT(On the Job Training)にて日本式経営の理解を深め、将来的には企業を率いる人材となるための研鑽を図る

② 起業家育成コース Entrepreneur Development Course

- アントレプレナーとして成功するために必要な知識・能力・スキルを修得する
- 豊かな発想力と創造力を新事業につなげる力を身につける

③ グローバル企業コース Global Business Course

- 日系大手グローバル企業、在日外資系企業への就職を目指す

2019年度 DATEntre東北イノベーション人材育成プログラム第5期生（10月入学）学生募集要項より抜粋
https://datentre.ihe.tohoku.ac.jp/wp-content/uploads/2019/08/

DATEntre 科目

❶「日本語・キャリア教育」科目

- ビジネスレベルの日本語の習得、日本の企業文化・組織文化への理解を深め、日本企業での就職活動に備 える

❷「国際共修・PBL」科目

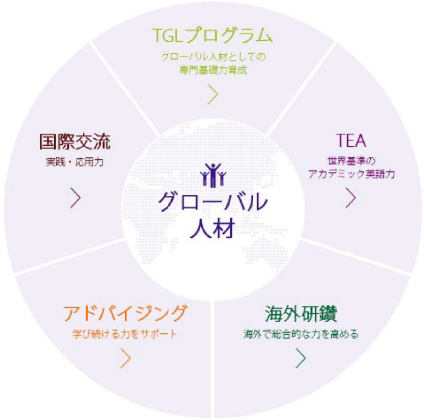
- 企業の抱える課題について、ワーク等を通じて日本人学生と共に課題解決に取り組むことで、お互いの異 なる考え方・価値観を学ぶ
- 日本での就職活動時に情報交換することのできる、日本人の友人を増や す絶好の機会である

❸「インターンシップ」科目

- ビジネスマナーや目標設定等、事前指導をしっかりと行った後、企業での就労体験、事後の振り返りを通じ、 日本で働くことやライフキャリアについて理解を深めていく

2019年度 DATEntre東北イノベーション人材育成プログラム第5期生（10月入学）DATEntreパンフレット（学生版）より抜粋
https://datentre.ihe.tohoku.ac.jp/wp-content/uploads/2019/10/DATEntre/

東北大学のグローバル人材育成



「グローバル人材になるには」より：https://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/global/

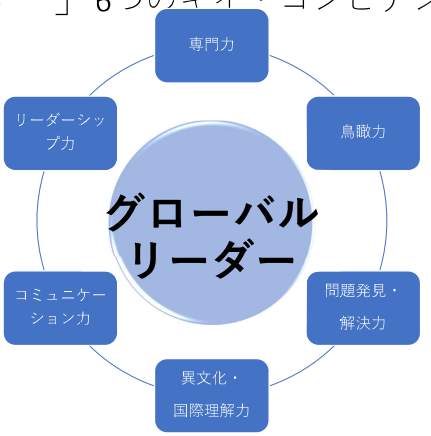
TGL（Tohoku University Global Leader）プログラムとは

- 東北大学の特長である柔軟で強固な「専門基礎力」に加え、その専門能力を充分に発揮し、産学官のさまざまな分野でグローバルに活躍するために必須となる「グローバル人材としての能力」を身につけるための実践プログラムです。

TGL Tohoku University Global Leader Program

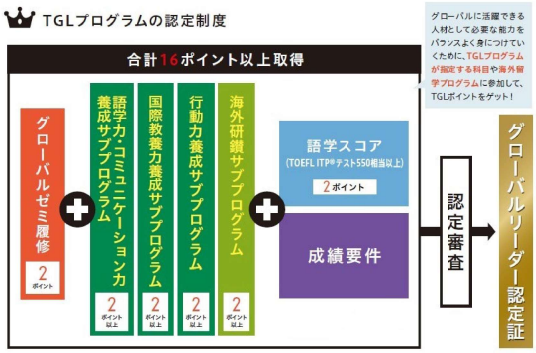
「TGLプログラムとは」から要約抜粋：https://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/global/about/

東北大学が目指す「グローバルリーダー」6つのキイ・コンピテンシー



「グローバル人材になるには」より要約抜粋：https://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/global/

TGLポイント制度



「TGLプログラムとは」から要約抜粋：https://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/global/about/

４つのサブプログラム

①語学・コミュニケーション力養成サブプログラム
- 語学力、表現力を養う

②国際教養力養成サブプログラム
- 異文化、自文化の理解
- 自身と他者の立場を客観的かつ共感をもって把握する力を身につける

③行動力養成サブプログラム
- 問題解決能力を伸ばす
- 自らアクションを起こし、またチームを率いたり自身の役割を理解し実践に移す能力を磨く

④海外研鑽（けんさん）サブプログラム
- 短期・長期留学、海外研修を経験する
- ①②③のサブプログラムの資質のさらなる向上・醸成をはかる

「TGLプログラムとは」から要約抜粋：https://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/global/about/

TGLポイント制度

TGLポイント
- TGLプログラムに登録した学生はTGLプログラムが指定する授業等に参加
- それぞれに定められたTGLポイントを取得

TGLプログラム修了
- 4つのサブプログラムから各2ポイント以上取得
- 合計10ポイント以上取得

グローバルリーダー認定
- 所定の条件を満たした学生は「東北大学グローバルリーダー認定証」を取得可

「TGLプログラムとは」から要約抜粋：https://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/global/about/

グローバルリーダー認定

TGLポイント
- 4つのサブプログラムから各2ポイント以上取得
- 合計16ポイント以上取得

語学能力試験
- . TGLプログラムが指定する語学能力試験を入学後に受験し、基準値を満たすスコアを取得
- 基準値：TOEFL ITP®テスト 550以上｜TOEFL iBT®テスト 80以上｜TOEIC®テスト 730以上｜IELTS 6.0以上

GPA
- 入学後からグローバルリーダー認定申請までに履修した科目において、本学全体の平均的なGPAである2.5/4.0以上を取得

「TGLの認定制度」から要約抜粋：https://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/global/leader/

- 東北大学の日本語カリキュラムの概要
- 就職支援プログラムとグローバル人材育成
- 留学生・日本人学生協働の「国際共修」の概要と実践

3

国際共修とは

言語や文化背景の異なる学習者同士が、**意味ある交流(meaningful interaction)**を通して多様な考え方を共有・理解・受容し、自己を再解釈する中で新しい価値観を創造する学習体験を指す

単に同じ教室や活動場所で時間を共にするのではなく、**意見交換、グループワーク、プロジェクトなどの協働作業**を通して、学習者が互いの物事へのアプローチ（考察・行動力）やコミュニケーションスタイルから学び合う

この知的交流の意義を振り返る**メタ認知活動**を、視野の拡大、異文化理解力の向上、批判的思考力の習得、自己効力感の増大などの自己成長につなげる正課内外活動を**国際共修**とする

末松他（2019）『国際共修』「はじめに」の定義より

日本語教育をベースとした共修

授業科目名：【展開ゼミ】コミュニケーションの諸相-国際共修ゼミ-
佐藤勢紀子先生

- 日本人学生と外国人留学生がともに日本語の用法や日本でのコミュニケーションの仕方について意見交換を行なうことを通じて、日本文化を複眼的に捉えると同時に、世界の多様な文化についての知見を深める。

東北大学シラバス：http://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/zengaku_annai.html

日本語教育をベースとした共修

授業科目名：【展開ゼミ】歌に学ぶ日本の言葉と心-国際共修ゼミ-
上原聡先生

- 日本人学生と外国人留学生が、日本の歌を題材にともに日本語や日本文化について考えたり意見交換を行なったり歌ったりすることを通じて、多様な価値観や世界観があることを知るとともに、日本文化の特色や他の文化との共通性を学ぶ。

東北大学シラバスhttp://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/zengaku_annai.html

グローバル教育をベースとした共修

授業科目名：キャンパス国際化への貢献留学生との協働プロジェクトを通して国際性をみにつけよう
末松和子先生

1. テーマ設定

大学や社会などのコミュニティに貢献するという一定の「成果」を意識し、文化背景の異なるチームメンバーと英語でコミュニケーションを取りながら協働作業を行う。
Iは国際交流イベントの企画・運営プロジェクト、IIは課題解決型のプロジェクトが中心となる。
チームワーク、リーダーシップ、自発性が重視される協働プロジェクトに取り組むことで、実社会に近い形の職業体験を得ると同時に、多角的な視点で事象を捉え、新たな価値観を創造する機会を得る。

7. 国際共修における教員の教育理念や目標

行動を起こすことで社会が変わるということ、自発的に課題を発見し解決することの大切さを伝えたい。座学では学べない、実社会で必要となるプロジェクトを企画・実施する力、Transferable skillsを身につけてほしい。

東北大学国際共修クラス：http://intl-class.ihe.tohoku.ac.jp/

地域社会と連携で行う共修

授業科目名：宮城の伝統文化を通じた日本理解　島崎薫先生

1. テーマ設定

仙台のすずめおどり、七夕（2016年度より実施予定）などについて実際に体験し、地域の人々と共に活動する中で日本文化、日本人、日本社会に対する理解を深める。

6. 授業実践での留意点

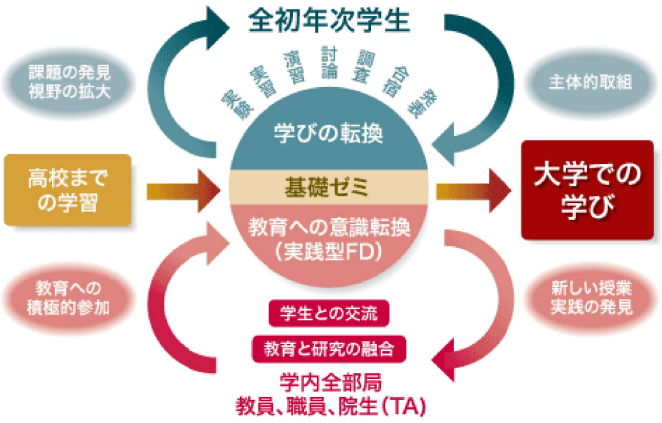
ステレオタイプ的に日本文化を教える授業ではなく、実際に体験を通して学生が文化について考え、そこから他の学生とのディスカッションなどを通して学生がそれぞれ日本に対する理解を深められるような授業にする。

7. 国際共修における教員の教育理念や目標

教師はあくまでも学習環境をデザインする役割に徹し、学生が理解を深められるような環境を整える。

東北大学国際共修クラス：http://intl-class.ihe.tohoku.ac.jp/

基礎ゼミとは



東北大学基礎ゼミHP：http://www.ihe.tohoku.ac.jp/center/tgpm/3.html

授業科目名：マルチメディア（マンガ・アニメ）で自文化紹介・異文化理解
シラバス：授業の目的と概要　林担当

1）「国際共修ゼミ」とは，留学生と日本人学生の協働の授業です。この授業では日本文化と留学生の文化を紹介し合います。

2）**「日本人から留学生へ」「留学生から日本人へ」の一方向ではなく，留学生と協働で準備・発表を行います。**

3）多様な社会的背景・価値観を持つ留学生との交流を通して文化を相互に紹介し合うことで，自文化だけでなく異文化への深い理解と尊重する態度を身につけ，将来，国際社会で活躍するための倫理観を養うことを目的とします。

東北大学シラバス：http://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/zengaku_annai.html

授業科目名：マルチメディア（マンガ・アニメ）で自文化紹介・異文化理解
シラバス：学習の到達目標

1）留学生との交流を通して自文化・異文化への理解を深める（知識・理解）

2）**マルチメディアを活用して自文化・異文化を紹介する**（技能・技術）

3）留学生の国の文化や自文化に関心を持ち尊重する（態度・関心）

東北大学シラバス：http://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/zengaku_annai.html

授業科目名：マルチメディア（マンガ・アニメ）で自文化紹介・異文化理解
シラバス：授業内容

1）〈知識・理解〉：マンガ・アニメを中心とする日本のポップカルチャーは海外で人気があり，日本語普及の要因にもなっています。**「他国ではどのような日本文化が知られているのか」「留学生が知りたい日本文化とはどのようなものか」**を知ることで，留学生の視点に立って日本文化を外から捉え直し，自文化に対する知識と理解を深めます。さらに，留学生の国の文化を協働で紹介し合うことで異文化への知識・理解も深めることを目指します。

2）〈技能・技術〉：文字だけの「モノメディア」のみならず，**マンガ・アニメ・ドラマ・映画など画像・動画の「マルチメディア」を活用**して，自文化・異文化を効果的に紹介する技能・技術を身につけることを目指します。

3）〈態度・関心〉：**留学生が知りたい日本文化や留学生の文化に関心**を持ち，積極的に調べて紹介することで**文化や他者を尊重する態度**を身につけます。

東北大学シラバス：http://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/zengaku_annai.html

授業科目名：マルチメディア（マンガ・アニメ）で自文化紹介・異文化理解
シラバス：授業方法

1）グループワークや意見交換など留学生との交流を主体として授業を展開します。

2）**Webアンケートを利用し，受講者が知りたい内容の文化紹介への反映**，発表への活用，意見交換の内容の提示など，双方向授業を目指します。

東北大学シラバス：http://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/zengaku_annai.html

授業科目名：マルチメディア（マンガ・アニメ）で自文化紹介・異文化理解
シラバス：進度予定

第1回　ガイダンス／**留学生の好きなマンガ・アニメランキング！日本文化紹介と理解に役立つマンガ・アニメは？**

第2回　**留学生が見て感じた日本文化・これから知りたい日本文化とは？**日本人学生が留学生に紹介したい日本文化とは？Webアンケート

第3回　**自分の好きなマンガ・アニメや名場面をパソコンで紹介し合おう！**

第4～5回　日本文化紹介のためのグループワーク

第6～8回　日本文化紹介と留学生の視点からの意見交換

第9回　**日本人学生が知りたい／留学生が紹介したい文化とは？**

第10～11回　留学生の国の文化紹介のためのグループワーク

第12～14回　留学生の国の文化紹介と意見交換

第15回　授業の振り返りとまとめ

東北大学シラバス：http://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/zengaku_annai.html

授業科目名：大学生活に役立つ敬語・日本語～留学生の視点から日本語を考える
シラバス：授業の目的と概要　林担当

1）**大学生活や就職活動に役立つ敬語や，留学生・日本人学生が興味・関心のある日本語**を，留学生の国の言語と比較しながら調べ，日本語と他言語に対する知識・理解を深めることです。

2）**国立国語研究所開発等の「コーパス」を活用して言語を分析し，動画や画像などの「マルチメディア」等を活用して効果的に発表する技能を身につけることです。**

3）外国人留学生とのグループワークやディスカッションを通して，留学生の視点に立って日本語を外から捉え，留学生の国の言語に関心を持ち尊重する態度を身につけることです。

東北大学シラバス：http://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/zengaku_annai.html

授業科目名：大学生活に役立つ敬語・日本語～留学生の視点から日本語を考える
シラバス：学習の到達目標

1）大学生活に役立つ敬語，興味・関心のある日本語や，留学生の国の言語に対する知識・理解を深める（**知識・理解**）

2）国立国語研究所開発等の「コーパス」で言語を分析し，「マルチメディア」等を活用して発表する（**技能・技術**）

3）**留学生とのディスカッションを通して日本語を外から捉え，留学生の国の言語に関心を持ち尊重する**（**態度・関心**）

東北大学シラバス：http://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/zengaku_annai.html

授業科目名：大学生活に役立つ敬語・日本語～留学生の視点から日本語を考える
シラバス：授業内容

1）日本語の敬語は体系的に発達しており，留学生には習得が難しい分野の一つです。現代日本語の敬語は，実践的に学習する機会が少なく，日本人でも敬語を自信をもって使いこなすのは困難です。誤用と知らずに使っていることも多く，まず**「５種類の敬語」を体系的**に学び，規範的知識を身につけることが大切です。

2）さらに，時代によって変化しているものもあり，**「コーパス」を用いて「使用実態」を調べる**ことも大切です。

3）後半は，留学生・日本人学生が「興味・関心がある日本語」について，「コーパス」で調べ，受講者等にWebアンケートを行い，「マルチメディア」を活用して分析・発表をします。課題となるテーマは，**先生へのメールの敬語，就活に役立つ敬語，若者言葉，SNS用語，役割語，オノマトペ（擬音語・擬態語），方言，曖昧表現**などです。受講者の希望に合わせて課題を設定し，留学生・日本人学生の協働で分析・発表します。

東北大学シラバス：http://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/zengaku_annai.html

授業科目名：大学生活に役立つ敬語・日本語～留学生の視点から日本語を考える
シラバス：授業方法

1）この授業は外国人留学生とのグループワークやディスカッション，クラス全体での意見交換を基に展開します。

2）Webアンケートを利用し，**「興味・関心がある日本語」の課題設定への反映**，発表への活用，意見交換の提示など，双方向授業を目指します。

東北大学シラバス：http://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/zengaku_annai.html

授業科目名：大学生活に役立つ敬語・日本語～留学生の視点から日本語を考える
シラバス：進度予定

第1回　**ガイダンス「敬語クイズにチャレンジ！」**
敬語の理解度をチェックしてみよう！
留学生の知りたい日本語・気になる日本語は？

第2回　**「外から見た日本語」 留学生の視点に立って日本語を外から見て考えよう！**

第3回　敬語発表のためのグループワークと**「コーパス」を活用した日本語分析**

第4回　敬語発表のためのグループワークと
「興味・関心のある日本語」についての課題設定

第5～8回　敬語についての発表と留学生の視点からの意見交換

第9回　「興味・関心のある日本語」の発表のためのグループワーク

第10回　「マルチメディア」を活用した発表のためのグループワーク

第11～14回　「興味・関心のある日本語」の発表と留学生の視点からの意見交換

第15回　授業の振り返りとまとめ

東北大学シラバス：http://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/zengaku_annai.html

参考文献

- 佐藤勢紀子・末松和子・曽根原理・桐原健真・上原聡・福島悦子・虫明美喜・押谷祐子(2011)「共通教育課程における「国際共修ゼミ」の開設―留学生クラスとの合同による多文化理解教育の試み―」『東北大学高等教育発開推進センター紀要』第6号
- 佐藤勢紀子（2015）「日本語研修室」『東北大学高等教育発開推進センター紀要』第10号
- 佐藤勢紀子・上原聡・副島健作・虫明美喜・押谷祐子（2016）「共修による日本語・日本文化学習の効果―平成26年度「国際共修学ゼミ」開講状況を踏まえて―」『東北大学言語・文化教育センター年報』第1号
- 末松和子・秋庭裕子・米澤由香子編（2019）『国際共修－文化的多様性を生かした授業実践へのアプローチ－』東信堂
- 東北大学概要2018：http://www.bureau.tohoku.ac.jp/koho/pub/gaiyou/gaiyou2018/（2020年1月30日閲覧）
- 東北大学基礎ゼミHP：http://www.ihe.tohoku.ac.jp/center/tgpm/3.html （2020年1月30日閲覧）
- 東北大学高度教養教育・学生支援機構の組織構成：http://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page_id=691 （2020年1月30日閲覧）

参考文献

- 東北大学国際共修クラス：http://intl-class.ihe.tohoku.ac.jp/ （2020年1月30日閲覧）
- 東北大学国際共修クラス： http://www.ihe.tohoku.ac.jp/intercul/ （2020年1月30日閲覧）
- 東北大学国際戦略：https://ie.bureau.tohoku.ac.jp/international-strategy （2020年1月30日閲覧）
- 東北大学シラバス：http://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/zengaku_annai.html（2020年1月30日閲覧）
- 東北大学日本語教育セクションより抜粋：http://www.jlpk.ihe.tohoku.ac.jp/ja/（2020年1月30日閲覧）
- 東北大学日本語教育セクション沿革より抜粋：http://www.jlpk.ihe.tohoku.ac.jp/ja/staff/（2020年1月30日閲覧）
- 東北大学日本語教育プログラム 沿革：http://www.jlpk.ihe.tohoku.ac.jp/ja/staff/（2020年1月30日閲覧）
- 東北大学日本語教育プログラム シラバス：http://www.he.tohoku.ac.jp/SJLE/syllabi/（2020年1月30日閲覧）
- 東北大学日本語教育プログラム 受講案内：http://www.he.tohoku.ac.jp/SJLE/JLPK/guide.pdf（2020年1月30日閲覧）

参考文献

- 東北大学のグローバル人材育成：https://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/global/（2020年1月30日閲覧）
- 東北大学のTGLプログラム：https://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/global/about/（2020年1月30日閲覧）
- 東北大学「TGLの認定制度」から要約抜粋：https://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/global/leader/（2020年1月30日閲覧）
- 東北大学「TGLの認定制度」から要約抜粋：https://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/global/leader/（2020年1月30日閲覧）
- 東北大学「TGLプログラムとは」から要約抜粋：https://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/global/about/（2020年1月30日閲覧）

参考文献

- 東北イノベーション人材育成プログラム留学生就職促進事業：https://datentre.ihe.tohoku.ac.jp/（2020年1月30日閲覧）
- 東北イノベーション人材育成プログラム留学生就職促進事業「DATEntre 東北イノベーション人材育成プログラム」：https://datentre.ihe.tohoku.ac.jp/（2020年1月30日閲覧）
- DATEntre東北イノベーション人材育成プログラム第5期生（10月入学）学生募集要項より抜粋：https://datentre.ihe.tohoku.ac.jp/wp-content/uploads/2019/08/DATEntre（2020年1月30日閲覧）
- DATEntreパンフレット（学生版）：https://datentre.ihe.tohoku.ac.jp/wp-content/uploads/2019/10/DATEntre（2020年1月30日閲覧）

講演２　「新たな留学生の動向に対応する」

小野正樹
筑波大学人文社会系グローバルコミュニケーションセンター教授

「新たな留学生の動向に対応する」

筑波大学人文社会系
グローバルコミュニケーション教育センター

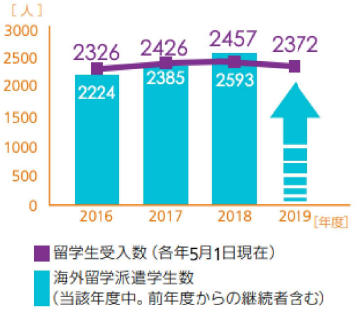
日本語教育部門長　小野正樹

IMAGINE THE FUTURE

概要

- 1）筑波大学の国際展開
- 2）筑波大学の日本語教育概観
- 3）グローバルコミュニケーションセンター
- 4）文科省「教育関係共同利用拠点制度」
  日本語・日本事情遠隔教育拠点（筑波大学CEGLOC）第3期
- 5）カリキュラム改定
- 6）日本学術振興会研究拠点形成事業（B.アジア・アフリカ学術基盤形成）

筑波大学の国際展開



筑波大学の国際展開

令和元年5月1日現在

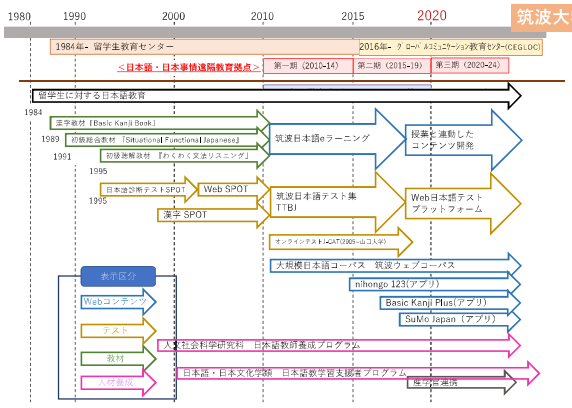
筑波大学の国際展開

12ヵ国・地域、12ヶ所に点在する海外オフィス

筑波大学の国際展開

Course Jukebox

筑波大学の日本語教育

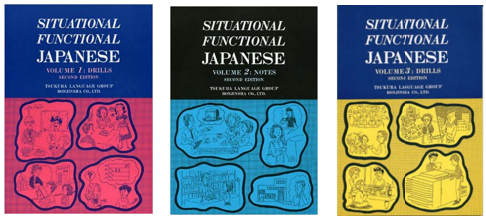


IMAGINE THE FUTURE.

筑波大学の日本語教育教材

日本語教育教材開発　初級教科書

・筑波ランゲージグループ（1991）『SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE』Vol.1-3、凡人社



筑波大学 University of Tsukuba

筑波大学の日本語教育体制

グローバルコミュニケーションセンター

筑波大学の日本語教育体制

グローバルコミュニケーションセンター
日本語教育人的体制

時期	2015年4月	2019年4月	2019年4月	2020年２月	第4期(～2027)	第5期(～2033)
専任数	8	7	7	8		
	教授（4） 准教授（4） 助教（1）	教授（2） 准教授（4） 助教（1）	教授（1） 准教授（4） 助教（2）	教授（1） 准教授（4） 助教（3）		
				非常勤講師(35)		
					学部留学生の定員化 5% 440名	学部留学生の定員化 10% 880名

IMAGINE THE FUTURE.

筑波大学の日本語教育

日本語・日本事情遠隔教育拠点(2010～)

筑波大学 University of Tsukuba

IMAGINE THE FUTURE.

筑波大学の日本語教育

日本語教育教材開発　動画

・場面・機能別日本語会話練習データベース
http://sfj.intersc.tsukuba.ac.jp/

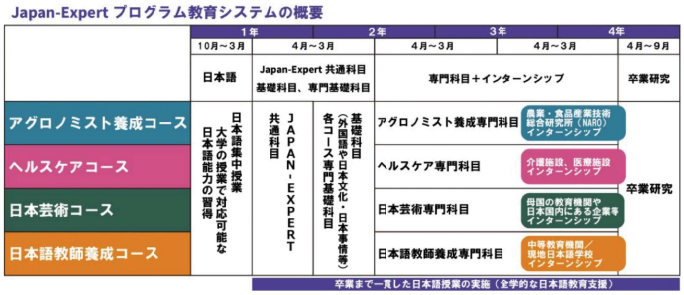
筑波大学 University of Tsukuba

筑波大学の日本語授業

受講対象者	区分	統合・存続にあたっての課題（単位数・期間）
学群の正規留学生	外国語（日本語）（科目番号:391・・）	週1コマ　15W　1単位
	G３０日本語(科目番号:399・・)	週3コマ　10W　2単位他 開講期間（10週）・固定時間
	G３０総合科目（日本事情）（科目番号:1B・・）	週1コマ+集中　10W　1単位 日本事情科目としての体系化
	Japan Expert 日本語(科目番号:392・・)	週1～3コマ　15W　1～3単位
学群短期留学生	総合日本語コース(科目番号:390・・)	週1・4コマ　15W　1・4単位
留学生全員（含研究生）	補講日本語コース(科目番号:XJ0・・)	週１コマ　10W　単位無し
	キャリア支援日本語コース(科目番号:XJ21・・)	週2コマ　5W　単位無し
国費留学生	集中日本語コース(科目番号:XJ22・・)	週20コマ　15 W　単位無し
	日韓共同理工系学部留学生日本語コース(科目番号:XJ23・・)	2019年度で終了

筑波大学の日本語授業

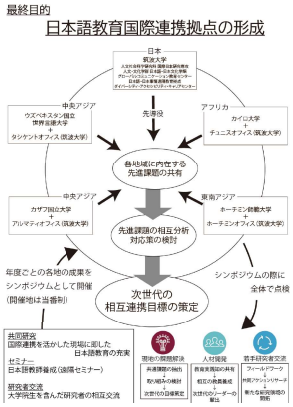
学部プログラム



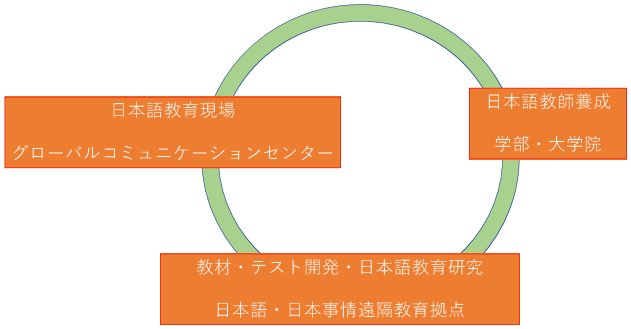
研究拠点事業

JSPS研究拠点形成事業

B.アジア・アフリカ学術基盤形成



筑波大学三位一体構想



報告：大阪大学における全学留学生対象の日本語プログラム
および日本語学習支援システムの紹介

難波康治
大阪大学国際教育交流センター 准教授

第13回 大阪大学専門日本語教育研究協議会

CIEE Center for International Education and Exchange

大阪大学における
全学留学生対象の日本語プログラム
および
日本語学習支援システムの紹介

国際教育交流センター
Center for International Education and Exchange (CIEE)
難波 康治

1

CIEE Center for International Education and Exchange

目次

- 大阪大学における日本語学習支援（概観）
- 国際教育交流センターのミッションと日本語教育プログラム
- OUSカリキュラムの開発（2008～2012）
  - G30への対応
- 新たな課題とその対策（2018～？）
  - SGUへの対応

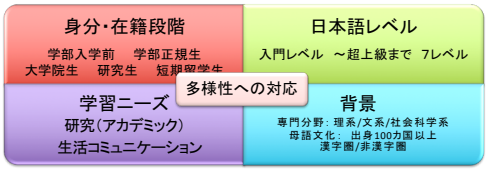
2

大阪大学における日本語学習支援

3

全大阪大学のニーズに柔軟に対応した日本語教育

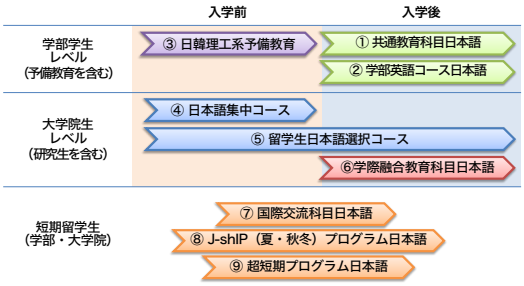
(1) 多様性への対応



(2) 時間的制約の厳しい教育

学習・研究活動と並行して受講。留学のQOLに直結

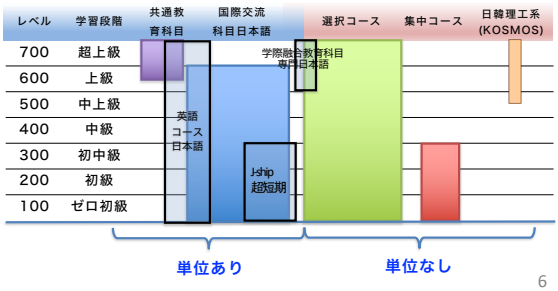
多様な日本語プログラム



5

CIEE Center for International Education and Exchange

日本語プログラムとレベル設定



6

OUSカリキュラムの開発(2008～2012)

- 文部科学省国際化拠点整備事業（G30）採択
- 科学研究費補助金（基盤C　研究代表者：西口光一）「留学生の大量受け入れ時代に対応可能な新たな日本語教育システムの構築(H21～H24)
  - 初級から超上級までのカリキュラムの見直し
  - シラバス、リソースとメソッドの開発（*A New Approach to Elementary Japanese 1-2*、中級アカデミックライティング教材など)
  - オンライン学習支援（オンライン日本語レベルチェック、教育・学習支援LMS、カタカナ学習システム、漢字学習アプリなど）の開発
  - 渡日前日本語教育システムの開発　→未完

7

初級共通教材の開発

◆テーマで学ぶ基礎日本語　1・2
New Approach to Elementary Japanese 1-2

◆同指導参考書
（くろしお出版）

8

ITによる自律学習支援

CIEE Center for International Education and Exchange

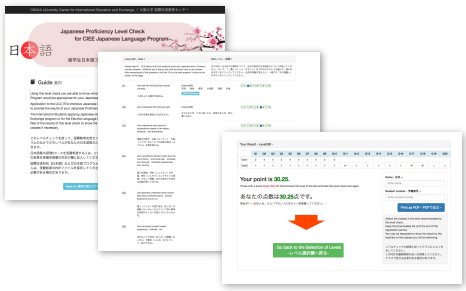
① カタカナ語自習システム

② 漢字学習アプリ
Perfect Master 漢字 N5-N2

③ 日本語授業専用LMS (*Okini*)

9

日本語レベルチェック



10

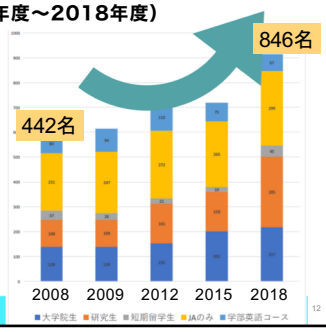
新たな課題とその対策

11

留学生日本語プログラム受講者数の推移
(2008年度～2018年度)

200%
10年前の
受講者から増加

短期留学生を中心とした
非正規生の受講が急増



国際教育交流センター

12

新たな課題とその対策

課 題

- 留学生のさらなる増加・多様化
  - SGUによる留学生受け入れ目標
  - 各種英語プログラム
  - 新たなディグリープログラム
  - 超短期(3～８週間)プログラム
- 人的リソースの減少（専任・非常勤）
  - 毎年の予算減圧力
- 場所の確保
  - ３キャンパスでの展開→移動
  - 教室の確保が困難

13

新たな課題とその対策

対 策

1. 教育システムの改良（高度化、効率化）
   - OUS（大阪大学日本語スタンダード）の改訂
   - CLIL (Contents and Language Integrated Learning) の導入
2. 授業外での日本語自律学習支援
   - オンライン教材の提供
   - セルフアクセスセンター（SALC）と「OU日本語ひろば」の開発・整備
3. ビジネスコミュニケーションとキャリア教育
4. 他部局・プログラムとの事前の連携

14

1. 教育システムの改良（高度化、効率化）

① カリキュラムとリソース配分の再検討
- オンライン日本語レベルチェックの調整
- 短期留学生向け総合日本語科目(JA100)のニーズ再調査

② CLIL(Content and Language Integrated Learning)科目の導入
- 2019年度秋冬学期より導入
- 短期留学生および学部英語コース向け600レベルの3クラスを「日本語・グローバル理解演習(JGU600)」に
- 「生殖医療」「言語と価値観」「現代日本のスポーツ史」
- 2020年度秋・冬学期より、さらに3クラスを500レベルにて実施予定

15

2. 授業外での日本語自律学習支援

（1） 「マルチリンガルプラザ」との共同

① マルチリンガル教育センターとの共同

② 概算要求（「キャンパスライフ一貫型」言語教育によるグローバルプレゼンスの確立）により設置

③ 日本語、英語を含む27言語の学習を支援
- リソースの紹介・提供
- 学習アドバイジング
- 自律学習の支援　など

① 2020年4月よりサイバーメディアセンター豊中教育棟内に開設

② 特任助教1名を配置

16

2. 授業外での日本語自律学習支援

（2）オンライン自律学習支援アプリ（OU日本語ひろば）の開発

① 目的：オンライン上で日本語学習に関する種々の情報を集約・整理した上で提供し、本学構成員の自律的な日本語学習を支援すること

② 基本方針
- ・リアルとヴァーチャルを結ぶ
- ・既存のリソースを最大限利用する
- ・スマートフォンでのアクセスを前提とする

17

2. 授業外での日本語自律学習支援

（2）オンライン自律学習支援アプリ（OU日本語ひろば）の開発

③ コンテンツ
- 「教室をさがす」
- 「相談する」
- 「教材をさがす」

18

2. 授業外での日本語自律学習支援

（3）「第二言語学習支援入門」

・大学院レベルで語学学習アドバイジングを行う人材を養成

・マルチリンガルプラザと連携して、学習アドバイジングの実習を行う。

＋

19

3. ビジネスコミュニケーションとキャリア教育

- H26(2014)年度より「ビジネス日本語」を開講
- H29(2018)年度よりアドバイジングチームと共同で、高度専門教育科目「キャリア支援とビジネスコミュニケーション」を開設
- R1(2019)年度「ビジネスコミュニケーション」をテーマとして講演会等を実施

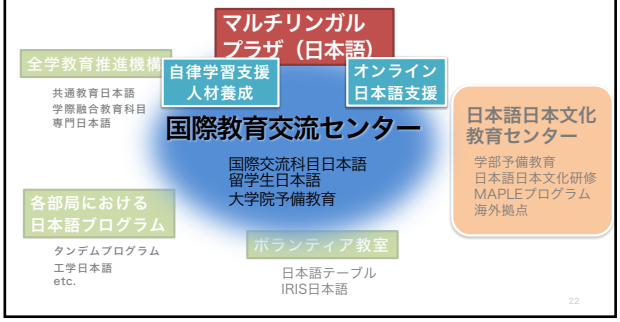
20

4. 他部局・プログラムとの事前の連携

- 国際教育交流センターにおける日本語チームのミッション=「学内外の日本語学習支援情報提供のハブ」となること
- 2018年度より、来日前の留学生への連絡システムを利用し、「渡日前日本語ニーズ調査」をウェブ上にて実施（情報学研究所のREASを利用）。
  - 日本語レベルチェックに誘導
  - 日本語受講に関する学生動向の予想
  - 大阪大学における日本語科目についての情報提供
  - 日本語受講に関する質問への回答

21

大阪大学における日本語学習支援



22

参考文献等

磯野英治、花井理香、大平 幸、上仲 淳、村上康代、村岡貴子、金 孝卿 (2016)「2014年度超短期プログラム『アカデミック・ジャパニーズの基礎』の実践報告」『多文化社会と留学生交流 :大阪大学国際教育交流センター研究論集』20 大阪大学国際教育交流センター

大谷晋也、西口光一(2019)「『日本語・グローバル理解演習』のコンセプトと設計の指針」大阪大学留学生センター研究論集』 23 大阪大学国際教育交流センター

勝田順子 (2018)「2016−2017年度短期日本語教育プログラム"夏J−ShIP" : 実施概要及び評価・課題について」『多文化社会と留学生交流 :大阪大学国際教育交流センター研究論集』22 大阪大学国際教育交流センター

金 孝卿 (2016)「ビジネスコミュニケーション教育のためのコース・デザインの検討 : 2014年度及び2015年度の「ビジネス日本語」コースの実践報告」『多文化社会と留学生交流 :大阪大学国際教育交流センター研究論集』20 大阪大学国際教育交流センター

佐合弘行、難波康治(2008)「留学日本語プログラムWeb履修システムの開発」『多文化社会と留学生交流 : 大阪大学留学生センター研究論集』12 大阪大学留学生センター

角南北斗、難波康治(2010)「大学の日本語教育におけるITの活用と日本語支援ITプラットフォーム開発」『多文化社会と留学生交流 : 大阪大学留学生センター研究論集』14 大阪大学留学生センター

竹内 喜、村岡貴子、西口光一、大谷晋也、三牧陽子、難波康治 (2011)「OUSカリキュラム開発の現在」『多文化社会と留学生交流 :大阪大学国際教育交流センター研究論集』15 大阪大学国際教育交流センター

西口光一 (2010)「留学生大量受け入れ時代に向けた日本語教育システムの開発」『多文化社会と留学生交流 : 大阪大学留学生センター研究論集』14 大阪大学留学生センター

23

参考文献等

西口光一 (2012)「CEFRの構造と記述文とOUSカリキュラム」『多文化社会と留学生交流 :大阪大学国際教育交流センター研究論集』 16 大阪大学国際教育交流センター

西口光一 (2014)「総合中級日本語のカリキュラム・教材開発のスキーム」」『多文化社会と留学生交流 :大阪大学国際教育交流センター研究論集』18 大阪大学国際教育交流センター

村岡貴子 (2014) 「上級日本語アカデミック・ライティング授業の実践報告 : 文章の比較・分析・評価タスクによる教材を用いて」『多文化社会と留学生交流 :大阪大学国際教育交流センター研究論集』18 大阪大学国際教育交流センター

義永未央子、小関 祐子、鹿島実夢 (2015)「いちょう日本語プログラム」活動報告 : 外国人研究者および外国人配偶者向け有料日本語プログラム

義永美央子、村岡貴子 (2013) 「大学院研究留学生のための基礎日本語教材の開発 : 日本語研修コースにおける実践から」『多文化社会と留学生交流 :大阪大学国際教育交流センター研究論集』17 大阪大学国際教育交流センター

文部科学省 (2018)「G30とは」』https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/1383342.htm

文部科学省 (2018)「スーパーグローバル大学創成支援事業とは」https://tgu.mext.go.jp/about/index.html

日本学術振興会 (2018)「スーパーグローバル大学創成支援事業(Top global university project)」https://www.jsps.go.jp/j-sgu/

24

全体討論

全体討論

登壇者：林雅子（東北大学）、小野正樹（筑波大学）、義永美央子（大阪大学）
司　会：西口光一（大阪大学）　（以上、敬称略）

司　会：まず、事実確認の質問として、こちらからいくつか質問したい。東北大学の国際共修科目70科目のうち、日本語ベースは何科目で、英語ベースは何科目か。日本語の教員などの語学教員が行っている科目とそれ以外の教員が行っている科目は何科目か。
林　　：日本語、約40、それ以外が英語で、歴史や異文化理解などの教員が行っている授業など多岐にわたる。
司　会：TGLポイントにかかわるのは国際交流関連の科目だけか。
林　　：体育などもあり、専門科目として開講しているものもある。
司　会：日本語科目はプログラムごとか共通の日本語科目なのか。
林　　：共通のものもあるが、同じ内容の場合、理系プログラムの学生が文系プログラム用の科目をとっても単位にならない。その逆もそうである。
司　会：筑波大学では、海外オフィスが12か所あるとのことだがその人員配置は。事務職員や教員がいるのか。
小　野：各大学内などに部屋の提供をしてもらい開設している。現地の教員がコーディネーターとして配置されており、日本側とやり取りを行う形である。
司　会：ジュークボックス、Canmpus in Canpusについて、特定の大学とのみで行われているものか。
小　野：講演内で説明をした大学とのCiC協定に基づき、協定グループに入っている学生を対象としている。
司　会：日本語科目の授業担当は常勤と非常勤だけで行っているのか。
小　野：全員がグローバル教育センターの人員のみで。日本事情は別の組織が担当。
司　会：JEの学生定員については。
小　野：各コース若干名である。
フロア１：東北大学ではレベルは５から６に増やしたそうだが、現在の所属大学では４である。増やした理由と増やしたことによる効果はどう考えられるか。
林　　：留学生が増えたことと、到達目標を明確化するにあたり、CEFRの基準などに合わせた形である。
義　永：大阪大学では７レベル。初級から中級への接続を考慮して、従来６レベルに分けていたものを数年前に７レベルに改変した。ただし運用上は、選択コースなど合同クラスを設置し、実質５レベルで動いているプログラムもある。
フロア２：ニーズに合わせた多様化について、語学教育を担当する教員に求められる技能は何か。
林　　：ファシリテーターとしての役割。いい意味での交流をどのようにしかけていくか。

小　野：チームティーチングが多いので、情報共有の仕方、セキュリティの問題などにも一緒にかかわれること。コーディネートまでできることが必要。テストが作れる人が減る傾向にあることは懸念材料か。

フロア２：定員の設定はどのようにされているのか

林　　：定員は 10～25 である。演習型か、講義型かにより上限が変わる。

フロア３：留学生を増やせと言われるが、どのレベルでの受け入れなのか（非正規の短期学生か正規生か）。留学生の受け入れ増のためにどのようなことをされているか。

林　　：交換留学や超短期などにより、より良い日本語教育を提供して、正規生として日本へ戻ってきてもらうことを目指す。

小　野：アイディアの提案や全学的な会議への出席などから、Ｊエキスパート、農業の後継者、看護・介護、日本語教師など不足している分野と結びついたプログラムの作成。地域と結びついた企画も重要性がある。

義　永：現在は、留学生の受け入れをいかに増やすかという課題が各部局に与えられている状況。特に、現状では留学生数が毎年５月１日の実績でカウントされるため、その時点で在籍している留学生、特に交換留学生や短期プログラムで来日する留学生をどのようにして獲得するかが検討の中心となっている。

フロア４：学生が増えて、負担が増えても日本語担当の貢献は表しにくい。どうすればいいか。

義　永：短期の交換留学生、大学院での学位取得を希望する留学生などさまざまなタイプの学生がいるので、できるかぎり留学生の特性に合わせたクラスを提供する。また、執行部にセンターの取り組みや日本語教育の重要性を理解してもらえるような情報提供が重要。

フロア５：Ｊエキスパートについて、単位の仕組みなどはどうなっているか。

小　野：学位を取得するプログラムであり、日本語教師養成、芸術、ヘルスケアなどその分野が従来ある学部で受け入れている。新しく設けた学生枠ではなく、既存の教育組織において若干名がプログラムで学ぶ形である。

フロア６：他部局や他大学との連携に関して難しかった点は何か。また、それをどう克服したか。

小　野：グローバルコモンズ機構という、全学の留学支援･国際交流組織があり、定期的に情報交換を行っている。毎月行われる会議には専任教員がローテーションで出席し、交流体制を整えている。

義　永：国際教育交流センターには日本語以外にアドバイジングや短期プログラムの受け入れ・送り出しをミッションとするチームがあり、それらのチームに属する教員が学内各部局と築いてこられた連携体制に助けられる部分もある。部局との連携を適切に継続することが重要だと考えている。以前は各部局との情報共有が十分でなかった結果、各部局で受け入れた留学生が急に多数日本語のクラスに来て定員を超えてしまうようなこともあったが、最近は、来日前の留学生に日本語クラスの受講希望や日本語のレベルを事前に尋ねるアンケートを実施しており、そうした情報を生かして準備を行っている。

以上

協議会風景

「第 13 回大阪大学専門日本語教育協議会」講演風景

講演 1

講演 2

報告

全体討論

会場全体

付録：過去の大阪大学専門日本語教育研究協議会の開催状況

１．第１回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「大学院レベルの専門日本語教育とは何か」
日時：2007 年 3 月 13 日（火）13：00～17：50
場所：吹田キャンパス IC ホール　留学生センター２階 Room５＆６

２．第２回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「大阪大学における専門日本語教育のさらなる定着に向けて
―留学生・指導教員とのディスカッションを通して―」
日時：2009 年 3 月 10 日（火）13：00～17：30
場所：吹田キャンパス IC ホール　留学生センター２階 Room５＆６

３．第３回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「専門日本語教育におけるライティング能力の養成
―留学生と日本人学生の双方に対する教育の共通課題―」
日時：2010 年 3 月 9 日（火）13：00～17：30
場所：吹田キャンパス　コンベンションセンター会議室１

４．第４回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「キャリア形成につながる専門日本語教育を考える」
日時：2011 年 3 月 8 日（火）13：00～17：00
場所：吹田キャンパス　コンベンションセンター会議室１

５．第５回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「日本語教育のスタンダードの課題と展望」
日時：2012 年 2 月 15 日（水）13：00～17：00
場所：吹田キャンパス　コンベンションセンター会議室１

6. 第 6 回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「研究留学生のための専門日本語教育を考える」
日時：2013 年 2 月 19 日（火）13：00～17：00
場所：吹田キャンパス　コンベンションセンター会議室１

7. 第 7 回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「上級レベルの専門日本語教育　-理論と実践-」
日時：2014 年 2 月 17 日（月）13:00～17:00
場所：吹田キャンパス　IC ホール Room５＆６

8. 第 8 回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「グローバル時代を生き抜く力の養成と大学における日本語教育を考える　-大学から社会への橋渡しを視野に-」
日時：2015 年 2 月 17 日（火）13:00～17:00
場所：吹田キャンパス　コンベンションセンター 2 階 会議室 2

9. 第 9 回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「専門日本語教育における IT 活用の可能性」
日時：2016 年 2 月 16 日（火）13:00～16:55
場所：吹田キャンパス　IC ホール Room 5 & 6

10. 第 10 回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「内容言語統合型学習（CLIL）の実践に向けて」
日時：2017 年 2 月 21 日（火）13:00～17:00
場所：吹田キャンパス　IC ホール Room 5 & 6

11. 第 11 回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「学習者オートノミーを育む言語学習とその支援」
日時：2018 年 2 月 16 日（金）13:00～17:00
場所：吹田キャンパス IC ホール Room 5 & 6

12. 第 12 回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「市民性教育と日本語教育」
日時：2019 年 2 月 19 日（火）13:00～17:00
場所：吹田キャンパス コンベンションセンター 1 階 研修室